



未来の楽園01企画書



2020/12/15版

エリー



目次

2020/12/15 版	1
--------------------	---

2020/12/15 版

はじめに、この企画書はタイトル「未来の樂園」の作品紹介です。
わたしがこれからしたいことに興味を持ってもらうために書いています。

ほとんどの読者は、「未来が舞台なのかな？」くらいしか分からないでしょう。
どんな未来で、どんな人物が、何をする話なのか、内容はまるで知りません。
読み終わった後、内容が分かるようになっていて欲しいです。

なぜ書き終わってから公開しないのか？
それは、話を書いて公開することが最終目的ではないからです。
ゲーム世界を土台にした異世界転生のように、一つのジャンヌになってほしい。
他の人にも書いてもらい。だから設定資料を公開します。

目標スケジュールは以下の通りです。
2021年10月中に YouTube 漫画動画シナリオとしてブクログで公開する。
すすめ方は、
1 構成を立てる。
2 プロットを書く。
3 絵の説明と文字（ナレーション、セリフ、独白）にする。
4 イラストのラフを書く。
という感じです。

「1話10分前後（30カット前後）」を「30話」前後で想定しています。
まず「外せないシーン（骨格）」だけ書いて、あとから「細部」書き込んでいきます。

最終的に
1 「小説にして「なろう」サイトで無料公開する」をします。
2 「YouTube 漫画動画として制作する」は、協力者が現れたら目指します。
シナリオ、イラスト、声優、編集、監督を探しています。

理想は小説が漫画になり、アニメ化されて、スマホゲームで体験してもらうことです。

何を指して、どう進めていくか、ご理解いただけましたか？

次に企画書の目次について説明します。

内容は大きく4つに分かれます。

- 1 シナリオ「ララ」（ブックログのpapierで公開中）の変更点
- 2 「未来の楽園」の世界観
- 3 「未来の楽園」の物語概要
- 4 その他「未来の楽園」で決まっていること

【1 シナリオ「ララ」の変更点】

「2173年シリーズ」を読んでくれた方のためにシナリオ「ララ」からの変更点を3つ書きます。

説明の前にお礼を言わせてください。

何をどう書いたらいいのかわからなくて、途中からブックログのpapierで公開する本が作品ではなく考えたことになりました。「創作ノート」状態です。

それでも読んでくださってありがとうございます。

閲覧数がゼロではないことが励みになり、ここまでこられました。

重ねてお礼を申し上げます。

変更点は次の3つです。

1 話の主軸を「子育て」から「お手伝い文化」に変更する。

ララはロロと肉体関係を持たず、ルルを生まない。

ロロとは占い師として連絡を取り合う仲になる。

2 ララの占いはタロットだけではなく西洋占星術も取り入れる。

西洋占星術は転生の話につながるため、生き方の価値観が問われる。

他には、ルノルマンカードも使う。

覚えられたら東洋系も取り入れたい。

3 ララは区長補佐としてファシリテーターをする。

資料も作る。

コンサルタント的な要素を取り入れる。

「変えるところ」と「追加する要素」をご理解いただけましたか？

具体的には

【2 「未来の楽園」の世界観】

「未来」とは、日本の西暦2173年前後です。

舞台となる未来の日本では、価値観の変化が起きて制度変更しています。

まとめると以下の通りになります。

否定したこと

「自由競争による自律機能」を否定した。

何もしないと「人気がある」「取り組みやすい」に人が集中する。

だから1「必要だが嫌われている」2「必要だが難しい」がおろそかになる。

1 家事は必要だが嫌われているため取り組む価値が下がった。押し付け合い。

2 子どもを一人前にすることは必要だが難しいため専門家に任せた。学校教育。

結論

「計画に従って必要なことをする」と「自由競争をして人気を競う」で住み分ける。

方法

保護区：国土保護、育児、介護、看護など集団で必要なことをして義務を果たす。

管理区：保護区で必要なものを生産する。交通網、工場、研究機関などがある。

工場の労働者は13から15歳の子どもたちと自由区に暮らすアルバイト。

自由区：お金を稼いで好きなことをする資本主義経済。今と同じだがもっと厳しい。

今との違い：セーフティーネットが違う

今は、お金を渡している。生活保護。

未来では、保護区に戻る。必要なものを現物支給して、お小遣いを配る。

どう発展するか？

年齢で生きる場所と求められることが違う。一般的には、

0から6歳：保護区で「稼がないと何ももらえない」と教える。

7から12歳：保護区で「勉強しながらお手伝い」をしてお金を稼ぐ。

13から15歳：管理区の「寮」で集団生活して、「工場」で働き、勉強する。

16から39歳：自由区で競争して生きる。妊娠したら保護区に戻る。

39で死ぬ場所と死に方を決める。

40から60歳：村のために20年働く。

61歳から死ぬまで：保護区で隠居生活をする。パートで働く。

基本的に山奥の保護区に配置される。

60過ぎて体が弱った場合、平地の保護区に移ることができる。

若くても看護師、介護士は、平地の保護区で働く。

ここでは、何を否定して、どう変えた世界なのか、ご理解いただけましたか？

さらに具体的に「区の分布」と「区の特徴」を説明します。

<地理>

○全体の関係

(保護区の決め方)

日本の国土全体を「保護区」とする。

まず山奥は原生林にするため閉ざす。

徒歩で山男が見回る。

里山に近い山林は機械を入れる広い道を作り管理された林業をする。

村の基幹産業となる。

保護区の「村」とは、センターと一緒に給食を食べる単位を指す。

村と村は道路網でつながっている。

センターと呼ばれる総合施設が村の入り口にある。

保護区には移動の自由がない。

「自分が登録している村」しか出入りできない。

他の村に行くためには許可がいる。

許可があれば自由区の人や外国人も入れる。

(自由区の決め方)

保護区は、国土を保護し、育成・介護・看護をする義務がある。

特別に義務から解放して「行動の自由」を認めた場所が「自由区」となる。

自由区の「国際都市」は誰でも自由に出入りできる。外国人もOK。

東京、横浜、名古屋、大阪、博多の5つ。

自由区の「国内都市」は日本国籍を持つものは自由に出入りできる。

大きな駅のある商業都市と働く人が住んでいる住宅街。

○保護区の特徴

国土保護を目的とするため、環境に配慮した生活となる。

家庭機能を組織化して産み、育て、介護し、看護し、集団で支え合って暮らす。

誰でも自分で自分の世話をすることが必要になる。

食事、掃除、洗濯など家事業務のうち、食事は給食として提供される。

掃除と洗濯は、子どもにお手伝いを頼める。支配にならぬよう大人はできない。

子育ての場となるため、女性が中心となる。

村人想定は

0 から 1 2 歳の子ども。

1 6 歳から死ぬまでの女性。

4 0 歳から死ぬまでの男性。

○自由区の特徴

経済競争をして海外と対峙する。

世話の義務はない。

やりたいことだけしていい。

「自由には結果責任が伴う」と考えるため、稼げないものには住みづらい世界。

稼ぐ人には天国のような場所。

想定市民は

0 から 1 2 歳までの男女

1 6 から 3 9 歳までの男女

4 0 歳から死ぬまでの成功した男女

想定比率（管理区に住んでいる大人は 1 % 未満）

年齢 0-12

保護区男 25%

保護区女 25%

自由区男 25%

自由区女 25%

年齢 13-15

管理区男 50%

管理区女 50%

年齢 16-39

保護区男 15%

保護区女 35%

自由区男 35%

自由区女 15%
年齢 40-
保護区男 45%
保護区女 45%
自由区男 5%
自由区女 5%

○管理区

子どもたちが住む寮と保護区で使うものを生産する工場がある。
工場で働く大人は、管理職・技術職のエリート公務員と労働者のアルバイト。
自由区に住んでいて、管理区に通勤してくる。

エリート公務員になるためには、試験に合格しないとイケない。
13 から 16 歳まで寮生活して工場勤務をして「卒寮」したら受験資格がもらえる。

起業できないし、競争もできないけど、自由区で暮らしてみたい人は、アルバイトになる。

○無法地帯

自由区の歓楽街の一角の特別な場所。
人治支配の弱肉強食の世界。

無法地帯で生まれた子ども
親のどちらかが日本人なら 39 歳までに 3 年間工場勤務すると保護区に入れる。
日本国籍がない場合、自由区で暮らす権利を金で買うことができる。

どう住みわけるかご理解いただけましたか？

設定をまとめると考え方や価値観に集約されます。

<考え方>

チャンスは平等に与える。
だから競争に勝てないと思ったら、潔く義務に従って支え合って生きる。

自由区でやり切ったと思ったら、保護区の運営に参加して第二の人生を生きる。

そのためには、特性を子どものうちから自覚させることが必要。

やらせてみて、何が出来て、何ができないか、自分を知ることが教育となる。

<価値観>

否定：座学中心の長い教育機関

結果が生活に反映されないことは身につかない。

肯定：気を練り、感情をコントロールするために本番を繰り返す。

必要なもの；お客になってくれる人（仕事の依頼）

思考より行動を尊ぶ文化なのはご理解いただけましたか？

続いてどんな人物が何をする物語かです。

【3 「未来の樂園」の物語概要】

主人公は、「ララ」から「ララア」に名前を変える。

姓名判断で4画は大凶なため、ハッピーエンドに変えるならよい画数が相応しい。

ララアを中心にいろんな人の視点で語られる「群像劇」とする。

<物語の骨格>

世界観の骨格と重なる部分がありますが、改めて何を否定して、何を肯定するか確認です。

否定：座学中心の長い教育期間。

結論：仕事を任せて挑戦する機会を作る。

方法：大人がお客になる。

今との違い

今：大人が子どもの世話をし、子どもは勉強に専念している。

未来：子どもに家事を依頼し、実技と管理の仕方を学ぶ。

発展するとどうなるか？

保護区の大人全員が、子どもを育てることを引き受ける。

<お手伝い文化：ゲームにしたい部分>

制度を変えた結果、どんな文化が生まれるのかの確認です。

否定：消費者を最初に体験すると生産者になるハードルが上がる。

なぜなら、自分が要求して当たり前だと思っていたことはできないと気づくから。

だから最初から消費者にしないで、お小遣いは働いて稼ぐ。

結論：掲示板に出ている依頼を見て交渉する。

自分ができることを書いて、依頼を募ってもよい。

稼ぐ方法：「家事の手伝い」「大人の仕事の手伝い」「企画してチケットを売る」など。

今との違い

今：子どもは大人に買ってもらう。

未来：子どもが自分で稼がないと何も手に入らない。

発展すると起きること

起業家を育てて自由区に送り、保護区に戻って村を改善するリーダーになる。

<物語る内容>

主人公ラアラが住む場所と描きたいことを時系列順に書くと以下の通りです。

6歳まで自由区で過ごして、7歳で保護区に入ったラアラがお小遣いを稼ぐ。

子どもから見た自由区と保護区。

13から15歳まで管理区で仕事と勉強を学ぶ。

16から26歳まで占い師として自由区で旅して過ごす。

大人から見た自由区。

27から60歳まで区長補佐として保護区で過ごす。

ノノカという弟子に占いを教える。

大人から見た保護区。

60歳で山奥から平地の保護区に移り、自由区の死の街で話し相手になる。

死の街で死ににきたロロと再会する。

○キーワード：世話

「自分がすること」と「相手にしてもらうこと」は、「世話」です。

ラアラは26歳までは、自分が成長するために行動する。

できることをする。

27歳から、相手がすることを受け入れる。

してもらう側になる。

「助かったよ。ありがとう」を言われていた側から言う側になる。

つまり、世話し合うことで生まれる人間関係が、中心エピソードです。

最後に決まっている設定について書きます。

【4 その他「未来の楽園」で決まっていること】

<お金の流れ>

どうやって、国の隅々までお金をいきわたらせるかです。

「会社機能を担う自由区で若い人たちが稼ぐ」→「家庭機能を担う保護区を支援する」
「保護区のお小遣いで商品やサービスを買う」→「自由区の収入になり一部が税にまわる」

という感じで循環させます。

<保護区の税収入は自由区から得る>

どうやって自由区から保護区支援の資金を引き出すかです。

1 自由区の16歳以上の住人から一律徴収（月2万くらい）する。

払わないと自由区を追放され無法地帯に預けられる。

「払えないなら保護区に戻れ」と促す効果がある。

2 自由区で発言する権利を買う。

払った額が多い順に議員が選ばれる。

全額自力で払う：貴族議員（自分の考えで動く）

クラウドファンディングで集めて支援者がいる：平民議員（支援者を代表する）

※発言権を争うほど、保護区の収入は増えて潤う。

<地域通貨>

保護区ではお金を貯める必要がないため、使わせる仕組みを導入しています。

保護区の通貨は電子マネーの地域通貨。単位はポイント。

大人は月に7万ポイントもらえる。

子どもは月

7から12歳は5千ポイントもらえる。

13から15歳は3万ポイントもらえる。

30万ポイントまで貯められる。

30万ポイント以上のものはローンを組んで買う。

30万ポイント以上は消える。

貯めないで使わせることで経済を活性化することが目的の地域通貨だから消す。

保護区の地域通貨は自由区で使える。海外では使えない。ポイント。

自由区のお金は、保護区には持ち込めない。海外で使える。円。

管理区の給料はポイントで受け取る。

<住まい>

保護区では寝室、居間、台所、トイレ、風呂などがある平屋の木造一軒家を預けます。

個人住宅はセンターと呼ばれる総合施設を中心に、間隔を開けて建てられています。

給食はセンターで食べるため、足腰の弱ったお年寄り、6歳以下の子どもがいる家は近くに、若い人ほど遠くに住みます。

16歳以上の大人は、一人で住みます。

0から12歳以下の子どもは、大人と一緒に二人で住みます。

大人一人に対して、子ども一人が基本です。

大人と子どもと一緒に過ごすのは、寝る前の団らんから朝起きるまでです。

昼の間は、外で友だちと過ごします。

<妊娠・出産>

子どもを増やすためには、女性が産み育てやすい環境を作ることだと考えました。

16歳以上の女性は、好きな相手の子どもを産む自由がある。

母親は分かるが、父親は分からないこともある母系社会になる。

自分が産んだ子どもは、自分で12歳まで育てるのが基本。

知り合いに頼めるなら、子どもだけ保護区に送ることも可能。

子どもの年齢別、母親の働き方。

0から2歳：子育てが仕事なので係はない。

保育士のサポートが受けられる。

母親同士で助け合う。

風呂と寝かしつけがワンオペになるため、辛い時は泊まりに来てもらってもよい。

3から6歳：係を持ち、パートで働く。

7から12歳：フルタイムで働く。

自分の子どもが巣立ったら、自分と同じ性別の子どもを里子として引き受け可能。

子育てに必要なのは、帰って来ない父親ではなく、ご飯を作って世話してくれる人です。

父親には子どもが自由区に出てから働くことについて相談に乗ってもらいます。

幼いころから保護区にいる子どもとテレビ電話で話し、プレゼントを贈るなど交流することで親子の絆を得ることができる。

保護区の男性が父親役を果たすため、遺伝子上の父親がいる必要はない。

母でいる期間は12年と短く、父であることは努力しないと続かない。

家族解体の目的は家族の助けを得られない子どもを救うことです。

他人に世話になること、他人を世話することを普通とするための仕組みです。

<渡り>

村ごとに自治権を持っているため、権力が一人に集中して独裁にならぬように風通しを良くします。

具体的には、一年に一人、大人を交換する。移動する人を「渡り」と呼びます。

誰が行くかは、話し合いで決まる。

希望がなければくじ引き。

ずっと渡りを続けて、1年ごとに村を変えることもできる。

ずっと同じ村で暮らすこともできる。

<追放>

住むための条件を満たせないと追放されます。

- 1 2 歳までは保護区にいられる。
- 1 3 から 1 5 歳で管理区から追放されると自由区に行く。
- 1 6 歳からは、保護区で暴力を振るったり、嘘をついてだますと自由区に追放される。自由区で犯罪を犯すと無法地帯に追放される。

<死の街>

安楽死がセーフティーネットとして用意されています。

自由区の歓楽街に簡易ホテルのような施設がある。
そこでは、着替えを渡されシャワーを浴びたら、毒薬を渡され死ぬことができる。
期間は 3 日目の朝まで。

- 1 6 歳以上の自由区の大人なら誰でも利用できる。
- 保護区に戻れない人、戻りたくない人のための救済措置。

働ける間は働いて楽しみ、預金が尽きたら死の街で死ぬのが自由区の最期。

<家族の形と育てられる子ども>

基本的に「個人」で動くため、「家族」は解体されています。
制度としての結婚はない。
パートナー宣言をすることはできる。

男性が働きながら自由区で子育てしたい場合、1 2 歳まで育てることができる。
もちろん保護区に入って育ててもよい。
保護区に付き添うのが母親である必要はない。
しかし、父親が保護区で二人で一緒に住めるのは男の子に限られる。
性的虐待を予防する目的のため。

母親は、男女どちらでも一緒に住める。
しかし、他人の子どもは、同性しか住めない。

以上で紹介は終わりです。
いかがでしょうか？
だいたいどんな世界で何が起きるか、ご理解いただけたでしょうか？
最後まで読んでくれてありがとうございます。

未来の楽園01企画書

編集 エリー ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
